

知的オフィス環境推進協議会

2020年12月定例研究会 報告書

1. 案内

知的オフィス環境推進協議会
会員各位殿

すでに速報でお知らせしている知的オフィス環境推進協議会の12月定例会を次の要領で開催します。今回は完全オンラインですので、是非多くの皆様のご参加をお待ちしております。私も知りたかったグーグル社の全貌が明らかになると思います。

知的オフィス環境推進協議会 12月定例会

◆日時：12月15日（火）14：00－16：00

◆場所・方法：オンライン研究会（全員）（Google Meet を用いる）

◆プログラム

特集「Googleでの働き方」

Google社は世界で最も先進的なワークプレイスとワークスタイルを持ち、次々とイノベーティブなビジネスを開拓しています。この秘密をGoogle社の方2名にお話をさせていただく機会を得ました。是非、多くの皆様のご参加を宜しくお願い申し上げます。なお、Google Meetへの接続については知的オフィス環境推進協議会としては初めての試みですので、前日にはテスト接続の機会を設けたいと思っております。宜しくお願い申し上げます。

13：45－14：00 接続確認・調整

（参加申込を頂いた方には接続のリンクをお送りいたします）

14：00－14：05 オープニング 会長

14：05－15：30

講演（1）「コロナ禍でのオフィスの在り方について」

同志社大学名誉教授 三木光範

コロナ禍が続く中で、新たな働き方が模索されている。テレワークの長所や欠点も見えてきた。サイバー攻撃、自宅での仕事場、通勤地獄から解放、校外に家を購入、逆に都心に引っ越して自転車通勤など、種々の事例が出てきています。それらを考え、新たな働き方と新たなオフィスの形態を考えます。

14：30－15：20

講演（2）「Googleのイノベーションを生むカルチャーと働き方、オフィス設計」

グーグル・クラウド・ジャパン（合） カスタマー エンジニア 深堀 まど佳

Google のカルチャーや制度、オフィス設計や働き方など渋谷オフィスのデザインコンセプトも含めてご紹介します。

15:20-15:40

講演 (3) 「エンジニアとして経験したリモートワークの状況について」

グーグル（合） ソフトウェア・エンジニア 上川 純一

平常時グーグルは快適なオフィスを用意してそこでの顔を突き合わせての開発を重視しています。3月から COVID-19 の影響でリモート勤務に全面的に切り替え、自宅で OS 開発環境を整備することになりました。OS 開発環境において在宅勤務がどう影響したのか Chrome OS 開発の現場からお伝えします。

15:40-15:55 総合討論

15:55-16:00 クロージング

ご参加希望の方は次のサイトからお申込を宜しくお願い申し上げます。

会社の PC からアクセスできない場合は自宅の PC か、スマホからのご入力を宜しくお願い申し上げます。

<https://forms.gle/sYdhLsiS1mYNAxRc9>

なお、無料参加の人数は次の通りです。

理事会員：10名、プレミアム会員：5名、正会員：3名、準会員・特別会員：1名

関連子会社やグループ企業のかたも上記の複数名に入れることが可能です。是非ご招待下さい。

なお、その場合、連絡欄にどなたからのご招待とご記入をお願いします。

2. 関係者への礼状

Google 合同会社

上川純一さん、深堀まどかさん

写：知的オフィス環境推進協議会運営委員各位

三木です。

本日は知的オフィス環境推進協議会の 12 月定例研究会で大変お世話になり、有り難うございました。

GoogleMeet を使うオンライン研究会は初めての試みだったので、少し心配でしたが、多くの方にご参加頂き本当に良かったと思っています。

グーグルクラウドジャパンのカスタマーエンジニアである深堀さんは 6 年前にグーグルに転職さ

れたとのこと、お話の内容のご説明から、とても優れたエンジニアとしてのご活躍をされているだろうと推察することができました。深堀さんにお話し頂いたグーグルという会社の創業からこれまでの歩みを聞き、1998年創業のグーグルの歩みは世界のパソコンやモバイルが飛躍的に発展した時代と重なり、Google 検索に始まり、Gmail、GoogleMap、Youtube、Android、Chrome、Google Play、Drive、Workspace など、世界中の人々が使いたいプラットフォームを次々と世に送り出してきた会社であることを改めて認識し、そこで働いている人のイノベーションへの飽くなき追求というカルチャーとスピリットを感じました。

「イノベーション=チームの力×文化」という方程式はまさしく生産性を上げる最高の方程式であり、日本企業がDXによって生まれ変わらなければならない方程式だと思います。この中で文化、カルチャーは日本の従来の大企業が育ててこなかったものであり、特にサイコロジカル・セーフティー（心理的安全性）という言葉には感銘を受けました。良いアイデアを潰さない、良いアイデアをどんどん出そうという心理的安全性が高いチームや会社の方が生産性が高くなるのはその通りだと思います。オープンマインドで、何を言っても良い、何を質問しても誰かが親身に応えてくれる、心の負担を解放すれば多くの人はずいぶん新たなアイデアを出し、チャレンジしてみようという気になります。日本の多くの企業は、その逆に、心理的圧迫を加え、上司の意見に反対する人は潰されるということになれば、誰もが保身に逃げ込みます。

また、個人よりチーム、それも日本国内とか米国内だけでなく、世界中の人の知恵が集まる組織にする方が良いことが多いのは自明です。バーチャルスペースに世界中の社員が集まり、おしゃべりして、新たな気づきやひらめきを促すことこそ、イノベーションの源泉です。また、Think 10X、すなわち、10%より10倍という考えは素晴らしいことだと思います。日本の多くの企業は10%の改善を積み上げて成長してきましたが、それでは量的拡大はできても早晚伸びしろが少なくなります。10%ではなく10倍にする方策を考えるには、発想の転換が必要であり、それを求めないとイノベーションなんて絵に描いた餅になります。Think Big, Start Smallも素晴らしいことです。最初はガラクタでもいいからとにかく始めること、これがどんな仕事でも同じです。日本ではStart Tomorrowが多く、結局大したものできずに終わります。まず開始すれば、多くの人たちに見てもらおうことで意見をもらえます。何か形のあるものを創り出し、見せないとな人の意見は出てこないからです。

コミュニケーションはすべてのことをオープンにするという文化、素晴らしいですね。日本では自分だけ、あるいはある部署だけが知っている情報がある人や部署のレベルの高さを表現する機会が多いのですが、それではまったく駄目であり、その情報をどう活用して世に新たなソリューションを提供できるかが重要です。アイデアは会議室で生まれるものではなく、遊びやゴロゴロしている場合などにも生まれ、それをオフィスの中に取り入れることも重要です。この新たなオフィスの形については、日本も遅ればせながら先端的オフィスでは徐々にそうしたファシリティーが生まれて来ています。ただ、それを活用する力が不足していて、たとえばスタンディングデスクにもなる電動昇降型デスクを導入したにも拘わらず、誰もスタンディングでは仕事してない企業もあるそうです。理由は、隣の先輩が座っているのに後輩の私が見下ろすのは失礼だと言う

ことです。ここでも文化はとても重要だと分かります。

そのほか、カジュアルミーティングの曜日と時間を作ること、20%ルールで副業的なことをやっても良いとか、Peer Bonus で社員同士がランチ程度の金額の御礼を渡すこととか、社員が製品前のサービスを試す Dog Food、社員満足度を上げる詳細なアンケート調査を年に 1 回行う Googlegeist、上司だけが評価するのではない 360 度評価制度、何か素晴らしい成果を上げた人に贈る表彰制度などなど、Google の文化はとても親しみ易く、良いと思います。実は私が昨年度まで 23 年間学生たちを研究指導してきた知的システムデザイン研究室（通称三木研）でも、同じような文化を 1 期生の時から私が作り上げ、まさに研究室のチームの力と研究室の文化が合わさって、これまで日本最高速の PC クラスタの研究・開発、世界最高性能の分散遺伝的アルゴリズムや分散シミュレーテッドアニーリングの研究・開発、さらに知的照明システムの研究・開発などで大きな成果を上げてきました。このため、Google 社の文化は私にとっては自分の研究室のこのように感じました。

社員食堂が無料なのは驚きました。福利厚生の高さが覗えます。また、日本ではすべてが固定席というのも驚きました。私の研究室でも 10 年前ぐらいに学生の居室を全面改造して、オフィス家具も総入れ替えして、和風のこたつスペースも含め、多様な空間を作り、固定席を無くし、コンピュータが座る席を決める方式に変えました。ただし、配席ルールは月替わりにして、4 月は新 4 年生がいるので、同学年を集める配席とし、5 月は 4 年生と大学院生が混じる配席にするなど、考え抜いたコンピュータ配席システムです。これで大部分の学生はすぐに馴染めましたが、ある学生にとっては、毎日デスクが変わるのは心理的に辛かったようで、固定席の良さも分かりました。特に、上川さんが言っていたように、自分の城として、自分の私物や開発物などで山積み、あるいは飾りたいという人間の気持ちを大切にすると、毎日城を明け渡さないといけない辛さは分かります。

最後に、Google Workspace を使った仕事の進め方を見せてもらいましたが、本当にすべての作業がシームレスに繋がり、アプリを切り替えてデータを移動させるという手間もなく、また、社員全員とすぐに共同作業できるので、一旦それに慣れると、もはや多くの会社がやっていることの多くは無駄な作業であるという感触を持ちました。私も、Workspace で仕事をしてみたいくなりました。深堀さん、有り難うございました。

次にクロームの OS 開発エンジニアである上川さんの話を聞きました。3 月から 1 回も渋谷エクストリームのオフィスに本社でなく、8 月に卒業生である 5 期生の Microsoft の実田さんに企画してもらったときも、彼は一度も本社でなく、すごいことだなと思いました。

上川さんの個人的なワークプレイスとワークスタイル、そしてライフスケジュールを見せてもらい、感動的でした。6 時に起床、ラジオ体操をする、7 時に朝食、8 時から趣味のピアノの練習、9 時から仕事、午前中は 30 分ごとのオンラインミーティングが続き、11 時にブレイクタイムで任

天堂のゲームをする、11:30にランチ、12:30からゲーム、13時から仕事、ここではドキュメント作りなど、17時に仕事終了、18時に夕食、19時に風呂、21時に就寝。素晴らしいライフスケジュールだと感心しました。自宅での仕事ではきちんとスケジュールを作ることが何より大切であり、そのためにアラームなどをGoogleHomeでやっていることに驚きました。

各部屋にGoogleHomeがあり、予定の入力や確認、次のアクションに移るアラーム、照明の制御、エアコンの制御など、身の回りの面倒なことをすべて自動化することで、毎日の生活が規則正しく流れてゆく。これは本当に素晴らしいことです。通勤、ランチ、会議などリアルな会社では時間と共に物理的な変化が自然に生じますので、タイムスケジュール管理は楽だったのですが、自宅で個人作業ばかりになると時間管理が最も重要で、これをうまく自律的ではなく他律的にしていることがポイントだと思います。私は昨年までは大学で、何かをするときは必ず関係者とミーティングすることにして、時間が来たら呼びに来てもらう方式をとっていたので、タイムスケジュール管理はとても他律的で楽だったのですが、今年度からは自律的となり、なかなか難しいと感じています。ただ、運動不足にならないように、毎日夕方にはビル20階分の階段を上ることを昨年の6月、大学に居るときから続けていて、もう1年半も続いています。上川さんのようにゲームで体を動かすという文化が私にはないので、近所の公園を走っています。

上川さんの仕事環境の中で感動的だったのは、オンラインミーティングなどでの遅延などの問題を無くすために無線LANを使わないこと、すべて有線で行い、VPNを使わないGoogle方式の接続をやっていることでした。イントラネットを使わないことで、世界中がインターネットで結ばれ、HTTPのプロトコルだけで認証を行う仕組みを活用しているとのこと、これはChromeOSだけかと思っていたら、Windows10にもあるとのこと、そうなのですね。ゼロトラストモデル、BeyondCorpとよばれる概念、コンテキストアウェアネスという概念を始めて知りました。ユーザの認証をアカウント名とパスワードだけで行うのではなく、ユーザの位置情報や各種のセンシング情報などから本人であることを確認する手段であり、確かに顔認証、位置情報、SNS情報、情報機器の使い方など、種々の情報を集めれば本人かそうでないかは分かるはずです。その概念と、それをGoogleが行っていることを知り、情報系は最新の勉強が重要と改めて分かりました。こうした観点からも、いろいろな人と情報交換することがその人のアイデアの宝庫になると思います。

上川さんの仕事内容であるChromeOSの開発の仕事は、東京、ロサンゼルス、マウンテンビュー、ミュンヘンなど、世界中を飛び回り、世界中の関係者と議論するなど、本当に国際的ですごい仕事だなと思いました。ただ、マイクロソフトのWindowsOSとはまったく異なり、ユーザに開放されているAPIはHTTPプロトコルだけと知り、これも驚きでした。入り口を単一にして、プロトコルも単一にすればセキュリティー上も非常に守りが堅くなります。すべてのことをインターネット経由でHTTPプロトコルだけで行うというアイデア、これこそChromeOSの神髄だなと思いました。

長くなりましたが、本日の研究会では深堀さん、上川さんから多大の影響を受けました。おそらく、本日の研究会のご参加者の方も同様のご感想だと思います。今回の研究会が充実し、有益なものとなったこと、特に私にとってはとても刺激的で楽しい研究会でした。この研究会を企画し

てもらった上川さんには感謝します。深堀さん、上川さん、有り難うございました。

今後とも知的オフィス環境推進協議会をどうぞよろしくお願ひします。来年、COVID-19 が収束すれば施肥とも渋谷エクスストリームを見学したく、その節はどうぞよろしくお願ひします。

3. 関連写真

